

発表テーマの見つけ方！



学会発表をしてみませんか？

Step UP勉強会

第1弾 発表テーマの見つけ方（2024年12月）

第2弾 抄録の書き方（2025年2月）

第3弾 スライドの作り方（2025年3月）

Step UP勉強会

第1弾 発表テーマの見つけ方（2024年12月）

第2弾 抄録の書き方（2025年2月）

第3弾 スライドの作り方（2025年3月）

KKR高松病院

血液浄化センター臨床工学科主任

臨床工学技士 岩田康伸

【経歴】

平成15年4月 医療法人社団豊南会 香川井下病院 入職
平成21年11月 社会医療法人財団エムアイユー 麻田総合病院 入職
平成23年5月 (国家公務員共済組合連合会) KKR高松病院 入職
平成26年4月 KKR高松病院 臨床工学科 主任

【取得資格】

血液浄化専門臨床工学技士
臨床工学技士
透析技術認定士
呼吸療法認定士
医療安全管理者

【所属学会】

日本臨床工学技士会
香川県臨床工学技士会 (血液浄化部門学術委員副委員長)
日本血液浄化技術学会 (代議員) (VA管理委員) (学術委員) (VA管理指導士認定制度協議会)
日本透析アクセス学会

【受賞】

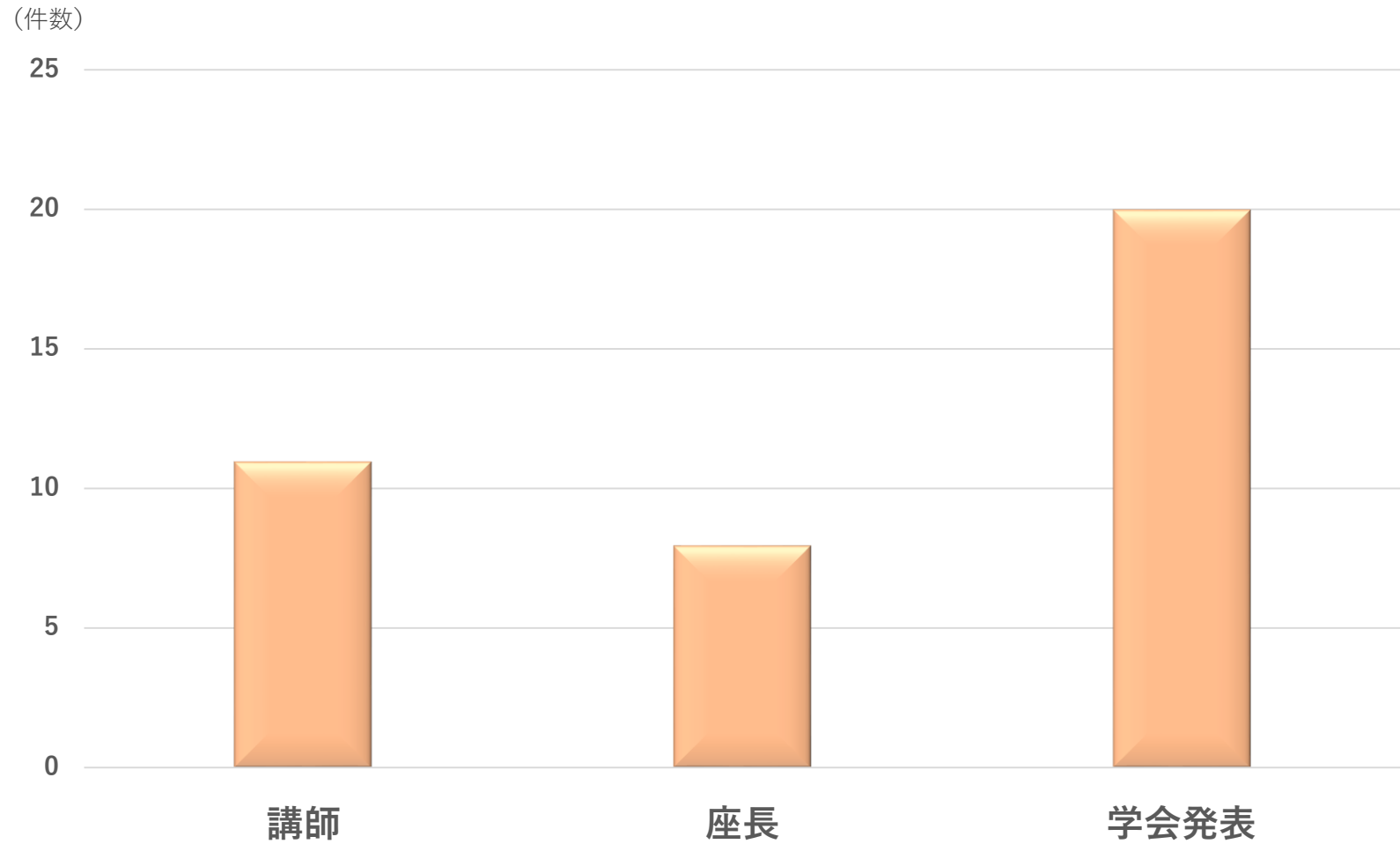
平成30年度日本臨床工学会BPA最優秀賞

【論文】

2021年9月	日本血液浄化技術学会誌	発表論文「OHDFにて予期せぬ低分子蛋白大量漏出を経験した症例」
2022年9月	日本血液浄化技術学会誌	発表論文「VAIVT後再狭窄を繰り返す症例の開存期間と血流量の関係」
2022年9月	日本血液浄化技術学会誌	原著論文「VAUSにおけるEDVの有効性の検討」
2023年9月	日本血液浄化技術学会誌	発表論文「上腕動脈機能評価でのVAの狭窄タイプの判別への試み」
2024年9月	腎と透析別冊アクセス2024	発表論文「脱血手前狭窄が透析効率に与える影響の検討」



2024年1月～11月
透析臨床工学技士6名学会・セミナー関連実績



私個人の件数

年間発表件数 4-5個
年間講演件数 5-6個
年間参加学会 10-15個

2022年9月	日本血液浄化技術学会誌	発表論文「VAHVT後得狭窄を繰り返す症例の閉鎖期間と血流量の関係」
2022年9月	日本血液浄化技術学会誌	原著論文「VAUSにおけるEDVの有効性の検討」
2023年9月	日本血液浄化技術学会誌	発表論文「上腕動脈機能評価でのVAの狭窄タイプの判別への試み」
2024年9月	腎と透析別冊アクセス2024	発表論文「脱血手前狭窄が透析効率に与える影響の検討」

KKR高松病院 血液浄化センター



患者数装置	維持透析患者	45-55名
	血液浄化センター病床数	19床
	集中治療対応病床数	2床
透析常駐職員	臨床工学技士(専属)	6名
	透析看護師	3名
	腎臓内科医師	1名
透析関連 取得資格	専門血液浄化臨床工学技士	4名
	認定血液浄化臨床工学技士	2名
	透析技術認定士	7名
スタッフ所属 学会 血液浄化関連 コメディカル	日本透析医会	
	香川県臨床工学技士会	
	日本臨床工学技士会	
	日本血液浄化技術学会	
	日本透析アクセス学会	
	日本腎臓リハビリテーション学会	
	日本血液透析濾過医学会	
	日本フットケア足病変学会	

発表内容の主な形

- ✓ 研究
 - ・ 基礎研究
 - ・ 開発研究
 - ・ 臨床研究
 - (観察研究・介入研究・二次研究)
- ✓ 業務報告
- ✓ 症例報告

発表内容の主な形

- ✓ 研究
 - ・ 基礎研究
 - ・ 開発研究
 - ・ 臨床研究
(観察研究・介入研究・二次研究)
- ✓ 業務報告
- ✓ 症例報告

など

発表テーマ


発表テーマ = 研究テーマ

- ① さまざまな疑問を書き出す
- ② 関心のあるものをピックアップ
- ③ 具体的なものにする
- ④ 疑問を研究可能な形に形成する

①～④の順に構成を検討していく

発表テーマ

発表テーマ = 研究テーマ

- 
- ① さまざまな疑問を書き出す
 - ② 関心のあるものをピックアップ
 - ③ 具体的なものにする
 - ④ 疑問を研究可能な形に形成する

①～④の順に構成を検討していく

本題に入る前に



本題に入る前に

発表に対するイメージ



本題に入る前に

発表に対するイメージ



- ✓ 発表って難しい？
- ✓ よく意味がわからない
- ✓ 人前でなんでしゃべらなあかんの？
- ✓ それ仕事ですか？

発表した人に尋ねると・・・



発表した人に尋ねると・・・

- ✓ 上司命令又は病院命令
- ✓ 先輩がしてるから仕方なく



発表したくない理由を尋ねると



発表したくない理由を尋ねると

- ✓ 業務外のことをしてはいけないの？



発表したくない理由を尋ねると

- ✓ 業務外のことをしてはいけないの？
- ✓ プライベートな時間削る意味は？



発表したくない理由を尋ねると

- ✓ 業務外のことをしてはいけないの？
- ✓ プライベートな時間削る意味は？
- ✓ お金出ますか？

発表したくない理由を尋ねると

- ✓ 業務外のことをしてはいけないの？
- ✓ プライベートな時間削る意味は？
- ✓ お金出ますか？
- ✓ 質問されたら答えれないからしたくない。
恥ずかしい。

発表したくない理由を尋ねると

- ✓ 業務外のことをしてはいけないの？
- ✓ プライベートな時間削る意味は？
- ✓ お金出ますか？
- ✓ 質問されたら答えれないからしたくない。
恥ずかしい。
- ✓ 自分の発表なんかしょぼいと感じてしまう。

発表に対する意識の差



上司

発表対象者



上司

- 発表して学術的な経験を積んで欲しい
- プレゼンテーション（人前で話す）練習にもなる
- 発表で調べ物をした分、知識になり業務に活かせる

発表対象者

上司

- 発表して学術的な経験を積んで欲しい
- プレゼンテーション（人前で話す）練習にもなる
- 発表で調べ物をした分、知識になり業務に活かせる

発表対象者

- 何を発表すればいいの？
- 発表で得られる物が不明
- 解析？考察？さっぱり分からない
- めんどくせーーーーーーーー

上司

- 発表して学術的な経験を積んで欲しい
- プレゼンテーション（人前で話す）練習にもなる
- 発表で調べ物をした分、知識になり業務に活かせる

発表対象者

- 何を発表すればいいの？
- 発表で得られる物が不明
- 解析？考察？さっぱり分からない
- めんどくせーーーーーーーー

強制するとハラスメントに該当するから言いにくいな

上司

- 発表して学術的な経験を積んで欲しい
- プレゼンテーション（人前で話す）練習にもなる
- 発表で調べ物をした分、知識になり業務に活かせる

強制するとハラスメントに該当するから言いにくいな

発表対象者

- 何を発表すればいいの？
- 発表で得られる物が不明
- 解析？考察？さっぱり分からない
- めんどくせー————

した方がいいのは分かるけど
強制したらハラスメントだよな
先輩の発表も見たことない

上司

発表対象者

最近の若い子は発表してくれない

ルキッルキッルキッルキッルキッル

上司

発表対象者

最近の若い子は発表してくれない

発表は発表し発表は発表し発表は発表し

上司

発表対象者

最近の若い子は発表してくれない

上司 → 発表してほしいなら自分で発表して見せる

発表して見せる

上司

発表対象者

最近の若い子は発表してくれない

上司 → 発表してほしいなら自分で発表して見せる

若手 → 上司に指導を仰げば発表は必ず出来る

若手は発表を怖がる傾向がある

発表することの意味



発表することの意味

✓ 研究成果を関係者に伝えることができる



発表することの意味

- ✓ 研究成果を関係者に伝えることが出来る
- ✓ プレゼンテーションの練習になる
(人前でしゃべることの練習・慣れ)



発表することの意味

- ✓ 研究成果を関係者に伝えることが出来る
- ✓ プレゼンテーションの練習になる
(人前でしゃべることの練習・慣れ)
- ✓ 研究することで**業務のモチベーション**維持



発表することの意味

- ✓ 研究成果を関係者に伝えることが出来る
- ✓ プレゼンテーションの練習になる
(人前でしゃべることの練習・慣れ)
- ✓ 研究することで**業務のモチベーション**維持
- ✓ 他の研究者と論議出来る



発表することの意味

- ✓ 研究成果を関係者に伝えることが出来る
- ✓ プレゼンテーションの練習になる
(人前でしゃべることの練習・慣れ)
- ✓ 研究することで**業務のモチベーション**維持
- ✓ 他の研究者と論議出来る
- ✓ **新規の情報収集**が出来る



発表することの意味

- ✓ 研究成果を関係者に伝えることが出来る
- ✓ プレゼンテーションの練習になる
(人前でしゃべることの練習・慣れ)
- ✓ 研究することで**業務のモチベーション**維持
- ✓ 他の研究者と論議出来る
- ✓ **新規の情報収集**が出来る
- ✓ **他施設との交流**



発表することの意味

- ✓ 研究成果を関係者に伝えることが出来る
- ✓ プレゼンテーションの練習になる
(人前でしゃべることの練習・慣れ)
- ✓ 研究することで**業務のモチベーション**維持
- ✓ 他の研究者と論議出来る
- ✓ **新規の情報収集**が出来る
- ✓ **他施設との交流**
- ✓ **業績**として残る



発表することの意味



- ✓ 研究成果を関係者に伝えることが出来る
- ✓ プレゼンテーションの練習になる
(人前でしゃべることの練習・慣れ)
- ✓ 研究することで**業務のモチベーション**維持
- ✓ 他の研究者と論議出来る
- ✓ **新規の情報収集**が出来る
- ✓ **他施設との交流**
- ✓ **業績**として残る
- ✓ 自身の成長速度が段違いで早くなる

発表することの意味

✓ 研究成果を発表

✓ プレゼンテーション

質の高いより**安全な治療**を
提供できる知識が身につく

メンション維持

出来る

交流


として残る

自身の成長速度が段違いで早くなる



ここで本題に戻ります

発表テーマ = 研究テーマ

- 
- ① さまざまな疑問を書き出す
 - ② 関心のあるものをピックアップ
 - ③ 具体的なものにする
 - ④ 疑問を研究可能な形に形成する

①～④の順に構成を検討していく

①様々な疑問を書き出す

日常業務を行っていくうえで必ず疑問が発生する！



①様々な疑問を書き出す

日常業務を行っていくうえで必ず疑問が発生する！

(例)

いつも行う透析の治療。
透析終了後に、Vチャンバの薬液注入ラインから
投薬を行っていると思います。
回路を通して体に直接薬剤注入できるから、
Vチャンバから入れている。



①様々な疑問を書き出す

日常業務を行っていくうえで必ず疑問が発生する！

(例)

いつも行う透析の治療。
透析終了後に、Vチャンバの薬液注入ラインから
投薬を行っていると思います。
回路を通して体に直接薬剤注入できるから、
Vチャンバから入れている。



これ、本当に最適解なの？



①様々な疑問を書き出す



①様々な疑問を書き出す

- ✓ Aチャンバから入れたらどうなる？



①様々な疑問を書き出す

- ✓ Aチャンバから入れたらどうなる？
- ✓ 薬剤によって透析性は異なるよね？
蛋白結合率や腎代謝？肝代謝？

①様々な疑問を書き出す

- ✓ Aチャンバから入れたらどうなる？
- ✓ 薬剤によって透析性は異なるよね？
蛋白結合率や腎代謝？肝代謝？
- ✓ そもそもHDとOHDFで薬剤除去量変わってこない？

①様々な疑問を書き出す

- ✓ Aチャンバから入れたらどうなる？
- ✓ 薬剤によって透析性は異なるよね？
蛋白結合率や腎代謝？肝代謝？
- ✓ そもそもHDとOHDFで薬剤除去量変わってこない？
- ✓ 透析後に入れるのがよさそうだけど本当に正解？

①様々な疑問を書き出す

✓ Aチャンバから入れたらどうなる？

日頃から **メ** **モ** を取る

✓ 透析後に入れるのがよさそうだけど本当に正解？

①様々な疑問を書き出す

見解が出ているもの

見解が出ていないもの

この両者を振るい分けし、**見解が出ていないもの**が
研究対象となる

②関心のあるものをピックアップ

- ✓ Aチャンバから入れたらどうなる？
- ✓ 薬剤によって透析性は異なるよね？
蛋白結合率や腎代謝？肝代謝？
- ✓ そもそもHDとOHDFで薬剤除去量変わってこない？
- ✓ 透析後に入れるのがよさそうだけど本当に？
透析前でもよくない？

②関心のあるものをピックアップ

- ✓ Aチャンバから入れたらどうなる？
- ✓ 薬剤によって透析性は異なるよね？
蛋白結合率や腎代謝？肝代謝？
- ✓ そもそもHDとOHDFで薬剤除去量変わってこない？
- ✓ 透析後に入れるのがよさそうだけど本当に？
透析前でもよくない？

③具体的なものにする



③具体的なものにする

HDとOHDFで薬剤除去量に違いはあるのか？



③具体的なものにする

HDとOHDFで薬剤除去量に違いはあるのか？



ここから何の情報を集めれば発表の形になるのかを導き出す。



③具体的なものにする

HDとOHDFで薬剤除去量に違いはあるのか？



ここから何の情報を集めれば発表の形になるのかを導き出す。



- 何症例必要
- 患者情報（体重・身長・透析歴・VA・年齢・性別）
- どの薬剤にターゲットを当てるか（貧血・鉄剤・P吸着材など）
- ターゲット薬剤で効果のある検査項目をピックアップする
- 前向き研究可能か？後向きしかできないか？

④疑問を研究可能な形に形成する

臨床研究⇐

透析時投薬タイミング変化で血清データに変化を及ぼすのか？⇐

⇐

過去に ESA 製剤は透析中投与でも除去されないという報告が散見されていた。⇐
当院も過去より透析開始時に投薬を行っていたが、オンライン HDF が普及し蛋白除去を行うようになり蛋白結合率の高い薬剤や、分子量の大きい薬剤でも除去されている可能性がある。2018 年 2 月より当院も全薬剤を透析後投与に変更した。血清データと投与量から除去されている可能性の研究を行う。⇐

⇐

【研究スタイル】⇐

後ろ向き⇐

【期間】└

2017 年 8 月-2018 年 1 月（6 か月）⇐

2018 年 3 月-2018 年 8 月（6 か月）⇐

2 月は変更後ウォッシュ期間⇐

【対象】⇐

2017 年 2 月以前に透析導入し 2018 年 12 月まで生存している患者⇐

【項目】⇐

採血：HGB・HCT・PLT・Fe・フェリチン・UIBC・TIBC・Ca・P・I-PTH⇐

薬剤：ESA 製剤（エポエチンアルファ・エポジン・ネスブ・ミルセラ）⇐

2 次性副甲状腺機能亢進症治療薬（オキサロール・マキサカルシトール）⇐

鉄剤（フェジン）⇐

【対象患者名】⇐

中田豊和・高田幸久・三枝慎一・岡井順子・三好年子・高木京子・長尾松江・島田三郎⇐

福岡等・村上潤一・児玉欣由・小松和子・植田ミツコ・河西隆太・中島富美子⇐

高橋明宏・相良征人・植田健二・田中敦子・村井徳臣・馬場信隆・秋山緑・大森正志⇐

網谷清美・岡田敏見・吉川益男・市原雄二・中場亘・島一也・荻俊廣・福井章憲⇐

那須芳信・長嶋芳幸（計 33 名）⇐

研究目的と研究内容をまとめる

倫理委員会等に提出するものとは別に
簡便な形式で A4 用紙 1 枚に収まる形で
情報を書き出す。

これを作ることで研究テーマが明確化され
他者へどういう研究を行いたいかわかるよ
うになる。

また研究のブレもなくすることができる。

④疑問を研究可能な形に形成する

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
1	狭窄発見に使える機能評価の検証																					
2																						
3																						
4				男:1女:0			VAIVT		狭窄									上腕動脈機能評価				
5	番号	日付	氏名	年齢	透析歴	男/女	前/後/無関係	有/無	径	有/無	径	cm/s	cm/s	cm/s	cm/s			cm/s ²	ms	mm	mL/min	
6	1	2022.7.1		50.58	0.58	1	2	0	0	0	0	132.09	47.98	72.82	41.67	1.18	0.64	971.84	84	6.9	935.7	
7	2	2022.3.22		50.58	0.83	1	2	0	0	0	0	162.27	59.78	89.88	54.33	1.14	0.63	757.18	131	6.39	1045.9	
8	3	2022.7.19		83.83	4.58	1	2	0	0	0	0	126.58	72.04	93.89	52.97	0.58	0.43	573.86	93	6.35	1006.7	
9	4	2022.4.14		83.58	4.33	1	2	0	0	0	0	132.14	68.67	92.83	59.93	0.68	0.48	646.82	98	6.15	1069.5	
10	5	2022.1.25		59.25	19.91	1	1	1	1.6	0	0	74.68	38.44	50.78	34.88	0.71	0.49	376.02	93	5.9	572.1	
11	6	2022.2.24		59.33	20	1	1	1	1.6	0	0	81.75	47.33	56.54	33.72	0.61	0.42	426.29	84	6.35	639.7	
12	7	2022.3.10		59.42	20.09	1	0	0	0	0	0	104.08	73.32	80.34	46.93	0.62	0.28	299.98	100	7.30	1190.8	
13	8	2022.4.5		59.49	20.17	1	2	0	0	0	0	101.87	68.35	82.97	44.99	0.4	0.33	398.46	84	7.97	1345.3	
14	9	2022.4.26		59.49	20.17	1	2	0	0	0	0	114.25	60.03	78.02	40.55	0.69	0.47	527.43	103	7.7	1131.7	
15	10	2022.7.26		60	20.66	1	2	0	0	0	0	90.59	46.44	56.26	35.73	0.78	0.49	488.73	93	6.28	664.7	
16	11	2022.8.25		60.08	20.75	1	2	0	0	0	0	76.44	44.83	55.79	33.98	0.67	0.41	358.9	93	7.81	975.9	
17	12	2022.9.29		60.17	20.83	1	2	0	0	0	0	76.17	46.48	54.71	31.92	0.4	0.39	414.41	75	7.44	833.6	
18	13	2022.10.18		60.25	20.91	1	2	0	0	0	0	79.57	51.92	63.36	34.05	0.44	0.35	289.27	93	7.57	919	
19	14	2022.4.12		79.66	20.17	1	2	0	0	0	0	86.58	36.59	47.19	26.94	1.05	0.58	453.9	112	6.33	508.6	
20	15	2022.10.13		80.33	20.66	1	2	0	0	0	0	72.94	41.96	46.23	24.57	0.67	0.42	142.59	290	6.75	527.7	
21	16	2022.8.30		86.33	0.58	1	2	0	0	0	0	203.11	111.94	143.59	93.03	0.93	0.45	1151.05	87	5.6	1373	
22	17	2022.10.11		86.49	0.66	1	2	0	0	0	0	100.9	65.21	74.78	38.81	0.47	0.35	353.45	112	7.17	940	
23	18	2022.1.21		72.91	0.083	1	2	0	0	0	0	104.82	22.9	36.64	23.9	2.24	0.78	1027.33	81	5.53	244	
24	19	2022.3.24		73.08	0.17	1	2	0	0	0	0	94.24	29.69	37.31	24.14	1.73	0.68	880.62	75	5.8	383.1	
25	20	2022.4.21		73.16	0.33	1	2	0	0	0	0	100.05	20.63	43.48	25.63	1.57	0.68	1006.4	65	6.72	545.3	
26	21	2022.7.14		73.33	0.58	1	2	0	0	0	0	97.47	36.79	51.54	31.56	1.18	0.62	733.18	81	6.31	591.2	
27	22	2022.10.6		73.58	0.91	1	2	0	0	0	0	97.21	34.59	46.17	24.62	2.54	0.64	766.73	84	6.1	431.3	
28	23	2022.8.18		65.17	3	0	2	1	1.5	0	0	127.16	67.78	92.99	49.19	0.64	0.47	295.11	206	7.39	1265.5	
29	24	2022.4.13		56.91	0.083	1	2	0	0	0	0	140.39	49.16	67.04	38.54	1.36	0.65	1084.51	84	5.06	464.2	
30	25	2022.4.18		56.91	0.083	1	2	0	0	0	0	106.01	44.28	60.79	32.52	1.02	0.58	990.72	62	5.35	439	
31	26	2022.5.10		57	0.16	1	2	0	0	0	0	104.08	45.57	57.61	35.87	1.02	0.56	668.88	84	5	422.1	
32	27	2022.6.30		57.08	0.25	1	2	0	0	0	0	119.3	62.23	74.48	49.11	0.77	0.48	774.3	75	5.4	673.6	
33	28	2022.9.27		57.33	0.42	1	2	0	0	0	0	150.1	73.91	95.75	51.13	0.8	0.51	1144.56	65	5.33	684.2	
34	29	2022.10.11		86.08	4	1	2	0	0	0	0	146.53	71.65	100.61	54.46	0.74	0.51	715.8	103	5.92	898.1	
35	30	2022.4.19		72.75	9.33	1	2	0	0	0	0	151.49	66.23	100.18	52.91	0.85	0.56	301.68	252	7.29	1325.9	
36	31	2022.4.28		72.75	9.33	1	2	0	0	0	0	174.93	103.92	129.58	70.35	0.55	0.41	621.61	112	8.06	2153.8	
37	32	2022.9.22		73.17	9.75	1	2	0	0	0	0	179.28	94.73	126.33	67.55	1.25	0.47	613.19	156	8.16	2118.5	

フィジカルデータ

状態データ

不整脈

検査結果

Sheet1

フィジカルデータ

状態データ

検査結果

④疑問を研究可能な形に形成する



④疑問を研究可能な形に形成する

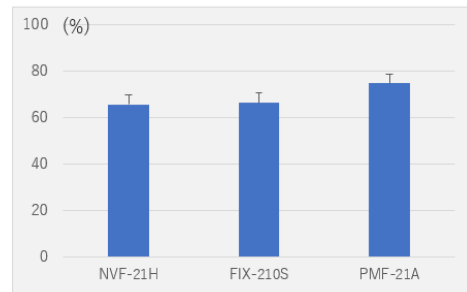
データがまとまったらグラフを作る。
発表のスライドで見るようなデータとなる。



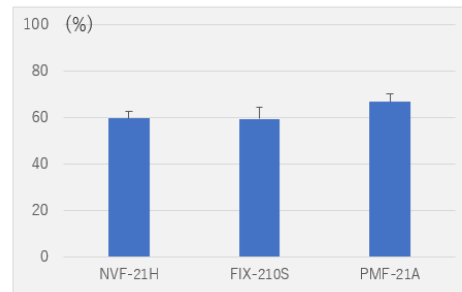
④疑問を研究可能な形に形成する

データがまとまったらグラフを作る。
発表のスライドで見るようなデータとなる。

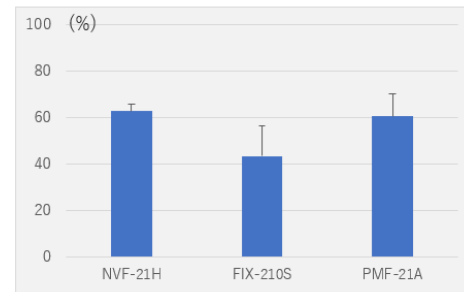
除去率



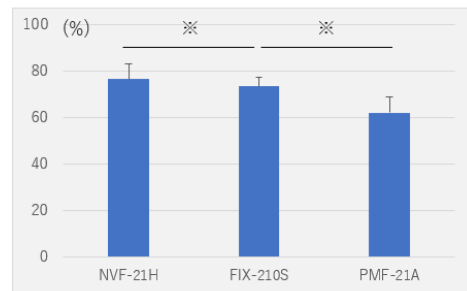
BUN



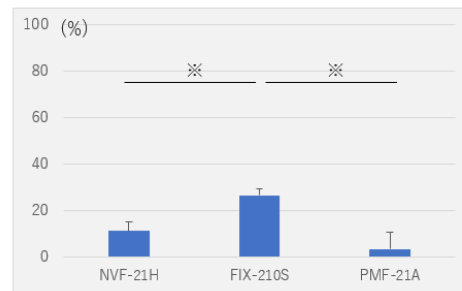
Cre



P



β 2MG



α 1MG

※ P<0.05
※※ P<0.01
※※※ P<0.001

ここまでのまとめ



ここまでのまとめ

- ① 日常業務の一つ一つの意味を考えて業務にあたる。
→ 必ず疑問が出てくる。



ここまでのまとめ

- ① 日常業務の一つ一つの意味を考えて業務にあたる。
 - 必ず疑問が出てくる。
- ② 日常業務を行っている間の疑問点はメモしておく。
 - 後で疑問の解決をする。

ここまでのまとめ

- ① 日常業務の一つ一つの意味を考えて業務にあたる。
 - 必ず疑問が出てくる。
- ② 日常業務を行っている間の疑問点はメモしておく。
 - 後で疑問の解決をする。
- ③ 明確な回答のないものは研究課題となりうる。
 - プランを形にして研究可能かを精査。

ここまでのまとめ

- ① 日常業務の一つ一つの意味を考えて業務にあたる。
 - 必ず疑問が出てくる。
- ② 日常業務を行っている間の疑問点はメモしておく。
 - 後で疑問の解決をする。
- ③ 明確な回答のないものは研究課題となりうる。
 - プランを形にして研究可能かを精査。
- ④ 上司は意欲のあるスタッフに必ず協力してあげる。
 - やる気を削ぐことはあってはならない。

ここまでのまとめ

- ① 日常業務の一つ一つの意味を考えて業務にあたる。
→ 必ず疑問が出てくる。
- ② 日常業務を行っている間の疑問点はメモしておく。
→ 後で疑問の解決をする。
- ③ 明確な回答のないものは研究課題となりうる。
→ プランを形にして研究可能かを精査。
- ④ 上司は意欲のあるスタッフに必ず協力してあげる。
→ やる気を削ぐことはあってはならない。
- ⑤ 学会に参加して発表を行うことで自信に繋げていく。
→ **楽しさを知る。これが一番大事。**

ここまでのまとめ

ここまでがテーマの見つけ方と
見つけてからの流れになります

よく他院から聞かれること

1 位 なぜKKR高松病院はそんなに発表できるのか？

2 位 若い方も積極的に発表して学会参加している。
どうやればそんなことできる？

やっていること……



やっていること……



- 次年度学会参加予定を12月に立てる。
- 発表したいと言ってくる内容は承認。
- 発表内容は担当者をつけて指導させる。
- 予演会を必ず行う。
- 学術に対して目標を持たせる。
- 大きな学会にステップアップ方式を採用。
- 上司が毎年数演題出し続ける。

やっていること……



- 次年度学会参加予定を12月に立てる。
- 発表したいと言ってくる内容は承認。
- 発表内容は担当者をつけて指導させる。
- 予演会を必ず行う。
- 学術に対して目標を持たせる。
- 大きな学会にステップアップ方式を採用。
- 上司が毎年数演題出し続ける。

やっていること……



- 次年度学会参加予定を**12月**に立てる。
- 発表したいと言ってくる内容は承認。
- 発表内容は担当者をつけて指導させる。
- **予演会**を必ず行う。
- 学術に対して目標を持たせる。
- 大きな学会にステップアップ方式を採用。
- 上司が毎年数演題出し続ける。

やっていること……



- 次年度学会参加予定を**12月**に立てる。
- 発表したいと言ってくる内容は承認。
- 発表内容は担当者をつけて指導させる。
- **予演会**を必ず行う。
- 学術に対して**目標**を持たせる。
- 大きな学会にステップアップ方式を採用。
- 上司が毎年数演題出し続ける。

やっていること……



- 次年度学会参加予定を**12月**に立てる。
- 発表したいと言ってくる内容は承認。
- 発表内容は担当者をつけて指導させる。
- **予演会**を必ず行う。
- 学術に対して**目標**を持たせる。
- 大きな学会に**ステップアップ方式**を採用。
- 上司が毎年数演題出し続ける。

やっていること……

業務内容は定型化（システム化）して行っている。
学術内容も業務同様な考え方をしている。

上司の配慮＋雰囲気づくり＋目標設定

= 部下のやる気（学会発表）



次回『抄録の書き方』

2025年2月予定